

令和 5 年度病床機能再編支援事業の事業計画について

1 仙台区域

(1) 事業計画の内容

医療機関名	診療科	病床稼働率 ※	病床削減 <b>前</b> の 稼働病床数(A)		事業対象となる 削減病床数 (B)		病床削減 <b>後</b> の 許可病床数 (A)-(B)		事業計画に係る考え方
国立病院機構 宮城病院	内科 脳神経外科 神経内科	87.4%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	当院は、機能的脳外科治療から神経難病・重症心身障がい児（者）等のセーフティネット系医療を実施している医療機関であり、宮城県神経難病ネットワーク拠点病院としての役割や、地域医療の実践（在宅医療を含む）、地域包括ケアシステムへの参画を行っている。 宮城病院の位置する山元町や隣接の亘理町は県内でも高齢化率が高く、人口総数の減少や医療従事者が不足していくことを考慮し、地域医療構想に即した当院の果たすべき役割や効率的な病床運営を検討してきた。 将来を見据えた医療需要や医療提供体制の維持を踏まえ、令和6年2月末を目途に病棟を再編することとし、急性期機能60床→0床、回復期機能44床→60床に転換し、地域医療提供体制における機能分化・連携をより一層推進し地域医療に貢献していきたいと考える。
			急性期	60	急性期	60	急性期	0	
			慢性期	240	慢性期	0	慢性期	240	
			計	300	計	60	計	240	
			(以下参考)						
			回復期	44	回復期	▲16	回復期	60	
			合計	344	合計	44	合計	300	
仙台青葉 クリニック	歯科口腔外科	22.8%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	当医院は歯科口腔外科の難抜歯や顎変形症等の外科的手術を伴う治療において病床を使用しております。 しかしながら、難易度の高い口腔外科の外科的手術においては術後の患者の全身管理をはじめ、医科の領域に及ぶものも少なくありません。 仙台地区の歯科部門を持つ基幹総合病院ではその設備や環境も整っており、幅広い患者のニーズに答えられる治療が可能であり、急性期病床が過剰となっている仙台医療圏において地域医療構想の実現に資するように令和5年度中に病床を無床にする事により病床再編に協力できると判断をいたしました。 なお、入院手術を伴う歯科症例は、近隣の東北大学病院や仙台医療センター等の基幹病院と連携をより強化しそれぞれの役割を補完しながら対応していく方針です。また無床となった後も、地域のかかりつけ医院として積極的に外来診療を行い、これまでと変わらず地域医療に貢献したい意向も申し添えます。
			急性期	6	急性期	6	急性期	0	
			慢性期	0	慢性期	0	慢性期	0	
			計	6	計	6	計	0	
			(以下参考)						
			回復期	0	回復期	0	回復期	0	
			合計	6	合計	6	合計	0	

※「病床稼働率」については、交付額の算定となる平成30年度病床機能報告の数値を記載している。

(2) 上記事業計画に対する県の考え方

仙台区域は急性期の病床数が必要病床数を上回っており、上記事業計画における急性期病床の削減については、地域医療構想に沿ったものとなっている。  
なお、令和5年11月6日に開催した宮城県地域医療構想調整会議（仙台区域）では、委員からの意見はなかった。

2 大崎・栗原区域

(1) 事業計画の内容

医療機関名	診療科	病床稼働率 ※	病床削減 <b>前</b> の 稼働病床数(A)		事業対象となる 削減病床数 (B)		病床削減 <b>後</b> の 許可病床数 (A)-(B)		病床削減に係る方針・考え方
涌谷町国民健康 保険病院	内科 整形外科	80.4%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	宮城県地域医療構想において、当院が位置する大崎・栗原医療圏は、既に急性期病床が過剰となっており、また、現状と将来必要な機能別病床数を比較すると、回復期病床が不足し、慢性期病床は転換等が必要とされています。 当院の現状について、令和4年度の病床稼働率は、一般病床が55.9%に対して、地域包括ケア病床が84.9%と高く、大崎・栗原医療圏の医療需要と同様、急性期の病床の需要が低く、回復期の病床の需要が高くなっています。また、1床あたりの単価については、急性期病床が28,384円に対して、地域包括ケア病床が33,232円と高くなっています。 以上のことから、大崎・栗原医療圏の医療需要の見通しに沿った体制を整え、経営状況を改善するため、令和5年4月から医療需要の低い急性期病床を削減するとともに、医療需要の高い回復期病床を増床しました。  病床数 急性期病床        76床    →    0床 (△76床) 回復期病床        0床    →    60床 ( 60床) 慢性期病床        39床    →    39床 計                   115床    →    99床 (△16床)
			急性期	76	急性期	76	急性期	0	
			慢性期	39	慢性期	0	慢性期	39	
			計	115	計	76	計	39	
			(以下参考)						
			回復期	0	回復期	▲60	回復期	60	
			合計	115	合計	16	合計	99	
永仁会病院	消化器内科 消化器外科 乳腺外科 肛門外科 腎臓内科 人工透析内科 歯科 矯正歯科	55.9%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	当院は、2階病棟34床、3階病棟46床の2病棟編成により合計80床で運営しておりますが、直近5年間の平均病床稼働率は54%と効率的な病床運営が行えていない状況にあります。また2病棟編成を維持するための看護職員の人員確保も年々困難になってきており、さらには当地に新築移転した23年前から診療機能も変化してきておりますが、その変化に建物構造面で十分に対応できていない状況にあります。そこで本事業により職員の就労環境の改善、医療サービスの向上を図りたいと考え、病棟機能をすべて3階に集約し、2階に薬剤科及び化学療法室を拡張のうえ移設するほか、内視鏡室の拡張、書庫・備蓄庫等に転用、1階は医事課の拡張及び発熱患者用の診察室を設置する工事に着手し、令和6年3月末終了の予定です。なお、本事業による改修工事後の病床数は令和6年4月より46床となりますが、直近5年間の平均入院患者数は43名であること、並びに46床のうち30床が個室と病床調整がしやすいため、入院患者の受入環境については大きな変化はないものと見込んでおります。当院の患者の動向、区域での当院の役割における変化は無く、地域医療構想の推進においては、大崎・栗原医療圏では急性期病床が過剰な状況にあることから、当院の急性期病床34床の削減は推進内容に沿った内容であると考えております。
			急性期	80	急性期	34	急性期	46	
			慢性期	0	慢性期	0	慢性期	0	
			計	80	計	34	計	46	
			(以下参考)						
			回復期	0	回復期	0	回復期	0	
			合計	80	合計	34	合計	46	
あさの眼科医院	眼科	7.7%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	当院では現在、主に白内障手術を病床を使用して行っています。 しかし、この手術は外来手術可能であり、また病床稼働率が低下したことから、現在の病床数を減らして支障がないであろうとの判断で、当院の病床数を減らして地域に必要な他の施設で有効に使っていただくという考えです。 削減は地域医療調整会議及び医療審議会の意見が“可”とされた時すみやかに行う予定です。
			急性期	6	急性期	2	急性期	4	
			慢性期	0	慢性期	0	慢性期	0	
			計	6	計	2	計	4	
			(以下参考)						
			回復期	0	回復期	0	回復期	0	
			合計	6	合計	2	合計	4	

※「病床稼働率」については、交付額の算定となる平成30年度病床機能報告の数値を記載している。

(2) 上記事業計画に対する県の考え方

大崎・栗原区域は急性期の病床数が必要病床数を上回っており、上記事業計画における急性期病床の削減については、地域医療構想に沿ったものとなっている。

なお、令和5年11月8日に開催した宮城県地域医療構想調整会議（大崎・栗原区域）では、委員からの意見はなかった。